

村政懇談会（村松地区） 会議録

～災害への備えについて～

記録者：小林

○日 時 令和5年8月9日（水） 18時00分～20時00分

○場 所 村松コミュニティセンター会議室

○出席者 <村松地区> ※敬称略

中村正美（村松地区自治会長）、渡辺りつ子（村松地区社協支え合い部会部会長）、
廣原勝廣（照沼区自治会長）、川崎浩克（照沼区副自治会長）、照沼三起子（村松
地区社協ふれあい協力員）、富永節夫（川根区自治会長）、小原洋（川根区副自治
会長）、照沼忠三（村松地区自治会顧問）、横山裕也（箕輪区自治会長）

計9名

<東海村>

山田村長、萩谷副村長、村民生活部 池田部長、
村民活動支援課 伊藤課長、高橋課長補佐、鈴木主任
防災原子力安全課 大道課長、平根副参事、竹内課長補佐
村松コミュニティセンター 石川センター長、小林副センター長（記録）、堤専門センター

計12名

○主な内容

1. 村長挨拶

【山田村長】

村松地区の村政懇談会は村内4か所目。村政懇談会はコロナ禍でも形を変えながら行っていた。コロナ前のように地区の住民の方々に集まっていただくのは形を変えていた。コロナで人を集めてはいけなかったので役員を中心に行っていた。今回はコロナも明けているので前のスタイルに戻すという考えもあったが、どの位集まっていただけるか分からないし、今までの懇談会はいろいろなテーマが出て話題が分散してしまうこともあったので皆さんの一番関心が高いことは何かと考え防災をテーマに設定させていただいた。自然災害と東海村の場合は原子力災害を抱えている。各自主防災組織で地震などを想定した訓練を行っていると思う。地域によって風水害の心配もある。ここは新川を抱えている。防災対策については、自然災害についてどういうことに気を付けていったら良いか、原子力災害の場合は違った動きになるので皆さんに説明しておきたい。皆さんは地区で役員をやられている方々で、本来この話は広く住民の方々に知っていただかなければならない内容なので、村としては別の機会に住民向けにきちんと説明したいと思う。大人数で行うのもあるし、出前講座のように地区で呼んでいただき担当課が説明するのもあるかと思う。まずは役員の皆さんにご理解いただき、そのうえで役員から皆さんへ伝えていただいても良いし、直接住民を集めたところで役場から説明しても良い。まず役員の方々にご理解いただきたいので設定させていただいた。

村松地区においてはサイクル研を目の前に抱えている。研究施設になると原子力災害対策支援区域の設定があり、皆さんの行動が変わってくる。それらの違いも分かっていない所があるので併せて改めて説明させていただく。これは村松地区だけでなく東海村民全体にもかかわる。発災施設によってどう行動しなければならないか広く周知する必要がある。村として今後いろいろな場を設けて徹底していきたい。

自然災害は自助と共助に頼らざるを得ない。要避難行動要請者は100人近くリストアップしている。一人ひとりの避難計画を作らなければならない。進めているが計画をつくるには地域の方々のお手伝いが欠かせない。自然災害の場合は地域で協力していただきたい。

原子力災害の場合は一人ひとりがいち早く逃げる事を考えてほしい。原子力災害で共助までは求めない。どちらの災害もまずは自分で避難する、自助の所はしっかり伝えたい。

時間があれば、防災以外の皆さまの関心のあるテーマで話す時間をとっていきたい。

地域のおまつりやイベントはできるだけやっていたらいいと思う。この夏単位自治会のおまつりも復活してきている。私も掛け持ちで行くようになり、うれしい限り。直接コミュニケーションを図れる機会は大事。コロナ禍でできなかったでいろいろな形で交流の場を設けていただきたい。

2. 災害への備えについて資料の説明、情報提供

①自然災害への備え 【防災原子力安全課 竹内課長補佐】

②原子力災害への備え【防災原子力安全課 平根副参事】

3. 意見交換

【村松地区自治会長 中村正美】

- ・宿区では12年前の3.11で新川に津波がかなり上流まで来て、一部床下浸水もあった。またあのような地震が来た時にどうなるか心配。
- ・津波が来るのに避難所が村松コミセンでは危ないのではないかという話がある。村松虚空蔵尊からだど2つの川を越えないといけない。避難所は津波の時にコミセンなのか、照沼小なのか、認識が共通していない。事象、場面で村からの指示に従って避難して下さいと聞かすが、住民としてはまずどこへ逃げれば良いか決めておかなければならないと思う。
- ・原子力に関しては、国・県・村の指示に従って行動する。予備知識として(今日聞いたもの等)しっかり持っていないとパニックを起こしてしまう。情報を的確にとらえることが重要と改めて感じた。

【村松地区社協支え合い部会部会長 渡辺りつ子】

- ・勉強になった。自然災害への備えが、家庭を振り返ると足りないものがある。準備するものはしっかりしないといけないと反省点を感じた。
- ・支え合い部会としての見守りをしているが、宿区の場合4人いる。村へ登録している方は見守りに入っていない。家族がいる方、昼間一人の方、そういう方へ何をしてあげたら良いのか。共助として見ていくという事だが、要避難行動要請者が自治会ごとにまだ完全にできていない状況なので、それが早くできて私たちに知らせていただいて、どういう手伝いができるのかが不明確で、どうするのか不安を持っている。

【川根区自治会長 富永節夫】

- ・原子力災害は情報を収集して村の指示に従って逃げるしかないのかと思う。
- ・那珂市や守谷市の訓練に参加した。誘導、指示ができていて良い訓練だったと個人的には思っている。
- ・川根は川を持っているので自然災害がどうしても心配な所。秋田での雨などのニュースを見ると、これまでの経験が通用しない、これまで大丈夫だったが通用しないのが心配。これまでは無くても秋田のような雨が降ったらどうなるのか考えると不安。
- ・新川の垂直に立っている部分を嵩上げしてもらったが、これまでの経験から言うと嵩上げした所から漏れたということは一度もない。地面より川の水面が高くなると、照沼の方から流れてくる水が川に流れなくなりそれが溢れてしまう。川からより周りから集まった水によって家の

周りが増えていくのが実際のところ。川根の真ん中の川へ流すようになっているが、田の穂が出る時期だと農業をしている方には収入にも影響があり、流す流さないでせめぎ合いが出てくる。最近はないが今後心配。

- ・川根は後ろに崖を抱えている所もあり、崖崩れなども心配な所。

【川根区副自治会長 小原洋】

- ・原子力については、災害の事例は世界中でもそうはなく、経験もないので、国や村の指示に従って粛々と対応するしかないと思う。
- ・自然災害について、地震・津波に関して、私は岩手三陸の出身で、明治、昭和、チリ地震の3つの津波で、ここまで来たとの経験や当時の話がそちらでは聞ける。こちらではそういうものが無い。家具が倒れる等、阪神淡路大震災の事例があったが、2011年の東海村ほどの程度の被害が具体的にあったのか。我々の経験している震度6弱だとこうなる、それ以上だったらどうなるのか知りたい。他の地域ではなく東海村の実際の被害が知りたい。
- ・東海村で今まで観測されていた震度はどの地震が一番大きいのか判らない。東日本大震災が今までで一番経験値が高いのか、だとしたらそれ以上の地震は起きないのか。私が気になっているのは次起こるであろう関東大震災。大正時代の関東大震災の時に東海村の記録は無くても水戸の記録は無かったのか。そういうものを踏まえて次起こるのはこれだなど考えられるような予測をして準備したいと思うが、過去の事例の情報が不足していると思う。

【村松地区自治会顧問 照沼忠三】

- ・水害の問題に関しては、原因はひたちなかから来るものもあるがどう考えているのか。
- ・水害問題は基幹場までが村でその先は県。せっかく嵩上げしたが、今現在100%で一番多かった時、前の方がオーバーフローした。
- ・下流の整備ができていないのではないかと考えている。
- ・ハザードマップに載っている崖崩れはどこが整備すべきなのか。庭先をボーリングした。地震の時、震度に対する被害がなかった。
- ・原子力災害に関して避難先を見直しするとの事だが、いつ頃になるのか心配。車のナビに避難先を入れているが使えるのか心配。

【照沼区自治会長 廣原勝廣】

- ・宿、川根の皆さんと照沼は地理的条件が全く違う。自然災害に関しては、照沼の住民の100%に近い人が危機意識を持っていないと思う。高台で、水害、土砂崩壊はない。あるとすれば台風による強風で家屋倒壊だが、沖縄のような瓦屋根が飛ぶなどはないと思う。自然災害に関しては残念ながら危機意識は持っていないと思う。
- ・原子力災害は国からの指示で村も動くのだろうが、それより先に本当にその指示が出るか。村からの要請・要望を無視して照沼の人は南の方向へ逃げて行くのではないかと考える。
- ・心配、気にするのは原子力災害だけ。私自身も自然災害に関してはそんなに危機感を持っていないというのが現状だと思う。

【照沼区副自治会長 川崎浩克】

- ・照沼の住民は自然災害に対する危機感がないとの話があったがそれは極端な言い方。地震があっても家に住めない状態になれば逃げなければならない。
- ・防災原子力安全課で作っているマニュアルによると、津波の時だけ照沼小を避難所にするというが、それ以外で使わせてもらえないのか。

- ・自然災害の概念が最近変わってくるのではないかと思っている。自然災害というと、地震、津波、風水害、土砂災害となっているが、15～20年前ヨーロッパで40度の熱波が来て高齢者がたくさん亡くなったニュースが流れた。今の日本の状況。15年経った今、イタリアで山火事が起きている。照沼は結構森がある。山火事になった場合、個人で逃げられるのか。
- ・原子力災害については大きな事故なので、行政の指示に従うのは徹底して協力しなければならないと思う。
- ・情報収集するにあたって twitter など IT は非常に有効になると思う。照沼地区は高齢化が進んでいる。IT 弱者に支援いただけたらより効果的なことになると感じている。

【村松地区社協ふれあい協力員 照沼三起子】

- ・勉強になった。照沼は年2回避難訓練をしている。なぜ海拔のない所に避難させるのか。照沼地区は村松コミセンでなく照沼小があるのではないか。
- ・12年前、新川がすごい黒い水になったそうだ。村松コミセンが避難所になったそうだが、津波が来たのに海拔がない所になぜ、と思った。
- ・自助・共助の中で12年前のことを思い出した。家の脇の見守りさんが一人だった。我が家も酷い被害だったのでその時は（見守りさんのことが）まるで頭になかった。自分の事がしっかりできていないと他の人の心配もできないのでまず、自分の身を守る。
- ・照沼は避難サポーターの話は着々と進んでいる。ただ避難するにも道路が悪い。そこがなかなか改善されない。ただ避難させれば、サポートになれば良いではなく、段階を追ってやっていただきたいと思う。

【箕輪区自治会長 横山裕也】

- ・箕輪区は原子力機関関係者。原子力防災に取り組んでいただいていることに、村、地区の皆さんに感謝している。
- ・残念ながら箕輪区は今年度で活動を終わってしまうことになっているが、引き続きこのような取り組みを継続していただければと考えている。

【防災原子力安全課 大道課長】

- ・津波の時に村松コミセンが良いのかの話があった。令和4年2月に全戸配布させていただいたハザードマップに避難所リストがある。津波避難所は照沼小学校、村松コミセンは基幹避難所の位置付けになっている。災害の発生状況に応じて、どちらに避難して下さいということになる。津波以外でも照沼小を使えないかとの話があったが、避難者の人数によっては基幹避難所のみならず照沼小を開けることもある。令和元年の台風の際、石神、白方コミセンを開けたが、避難者が多くなって白方小を開けた。柔軟に対応するので、情報の収集をして欲しい。
- ・見守りをしているが、災害があった時に何をしてあげたら良いかとの意見があった。要支援者はできるだけ一人にしない事が重要かと思う。ご自身の身の安全もさることながら、その方の身の安全。面会でできれば一番良いが、電話でも、声掛けできれば安心に繋がると思う。臨機応変に対応していただきたい。
- ・川根区の自然災害が心配、崖がある、川の水が溢れる、農業への影響の心配の話があった。気象庁(水戸气象台)と村長の間でホットラインが開設されており、警戒情報等が出される場合、直接電話が来ることになっている。そういった情報が逐一入ることになっている。その際は躊躇なく避難指示などを出し、逃げ遅れる方などがいない様、情報発信できればと思っている。
- ・東海村における過去の災害情報が不足しているのではないかと、それを踏まえて村も対応しては

どうかという意見について。2011年の震災体験記がまとめてあり、村のホームページに掲載してある。資料編に時系列で載せてある。降水量も気象台のデータを見ると取れると思う。

- ・ひたちなかからの水については担当課に伝える。
- ・原子力関係の避難計画、避難先は調整中。確定している部分もあるがまだ明確にお答えできず申し訳ない。
- ・照沼区は風水害より強風とのこと。先日行方地区で突風被害もあった。村内全域で突風には備えていきたい。
- ・原子力災害で村の指示前に避難してしまうのではないかとの話があった。本日の資料13ページを改めて見て欲しい。避難のタイミングが重要。避難所を利用したくて避難を開始しても、避難所が開設されていない。施設敷地緊急事態になって公設避難所が開設される。自助で動くことは止められないが、公設の県内3市の避難所を利用したい場合は開設されてからにしたい。
- ・照沼小を津波以外で避難所として使えないか、との意見については、災害の状況によって柔軟に対応させていただく。
- ・原子力災害の際に行政の指示に従いたいがIT弱者への支援が必要ではないかのご意見を伺った。村のスマホ講座を役場で無料で行っているのご利用いただきたい。村外でも入手可能なものを同時に登録いただくと良い。LINEと防災情報についてはプッシュ通知にすると情報が勝手に入ってくるので利用しやすいかと思う。
- ・照沼小を避難先にしたいという事については、状況に応じて開けていきたい。12年前村松コミセンに来たが津波が来たという事があったので、津波情報がある時には村松コミセンではなく照沼小を開ける。地震だけという時は村松コミセンを開ける。(避難者が)いっぱいになりそうなら照沼小を開けるという形で運用させていただきたい。

【山田村長】

- ・村松コミセンを基幹避難所としているのは避難所としての機能が良く、和室もある、小学校は環境が良くない。基本的に地震の時はここで良い。地震速報で津波の心配があるかないかが出る。よほど海岸の震源地でなければ地震イコール津波にはならない。時間的に余裕がある。地震の時はコミセンと考え、次に津波があるなら照沼小に変える。地震イコール照沼小にしてしまうと、かえって避難環境が悪い。村松コミセンが拠点であって欲しい。気象庁の情報などを総合的に判断してその都度対応する。風水害の時、川根は川を越えてここに来るのは大変なので中丸に逃げて下さいとしている。適宜情報を見ながら適切な指示を出すので信頼していただきたい。
- ・嵩上げして強化されたが逆にオーバーフローすると大変。田を作っている人には申し訳ないが、人命優先。真崎浦が調整池の役割を果たしてもらえない。その分水に浸かった米は補償する。まず人が優先で物については補償で賄うという事しかない。両方へ良い顔は出来ない。
- ・地域内の要配慮者の方へサポートしていただいている。一人ひとり個別の避難計画を作る。今対象の方の分をまず作る。これから先、対象者が出ればその都度新しい情報で作り続けなければならない。情報をどこまで皆さんへ開示できるかは個人情報に関係もあり、限られた方へしか伝えられない。少なくとも役員の方へは、最後助けてもらえるのでこの情報は皆さまで共有しましょうとご本人の了解を得て展開していきたいので協力は続けていただきたい。その時にソフト面だけでなくハード面の道路の問題も、すぐにはできないが、課題として認識して最優先で、避難対応として整備することも考えていく。避難計画を作る中でまたご指摘いただければまた考えていきたい。
- ・原子力災害については、色々な報道が先行して皆さんがパニックになることが考えられる。福

島の事故を踏まえて新しい基準ができ、過重に対策をしている。水一つとっても5千トンの水槽を2つ作って1万トンの水を持っている。最後には海水を原子炉へ投入することまで考えている。そういう対策をした中で何日間かは余裕がある。逆に早く出してしまうと車の中で生活してエコノミー症候群になったりしてしまう。きちんと情報を得て、しっかり考える時間がある。福島事故の急速な展開であの映像が残っていて、同じ事が起こると思っているが、福島事故を踏まえた対策で何日間かは余裕がある。あれほど緊急に事態が急速に悪化することはまずない。電源も多重に用意している。そこが伝わっていない。何をやっても福島事故が来てしまう。あれをやったの対策なのであれより相当時間的余裕がある。そこが上手く説明出来ていない。

- ・絶対安全はない、という言葉で、あの状況に皆さんイメージが戻ってしまう。これは村だけでは周知出来ない。国や県も含めて最終的に東海第二発電所のこの地域の所の住民にきちんと説明する機会は国や県でやってくれると思う。
- ・東海村の皆さんは放射性物質が出る前に予防的に避難する。これが他の地域と全く違う所でその難しさはある。
- ・村民の方々は、発電所で起きた時は全村避難、再処理施設等の時は屋内退避。施設によつての行動の違いは東海村民は分かっている。そういう事を皆さまに知っていただき周辺住民の方々は冷静に対応していただきたい。東海村民の違いを理解することで周りの方も理解を深めることができるのかと思う。私も多くの村民の方々に訴えていきたい。
- ・川根は岩盤が固いので地滑りはないと思う。上に生えている植物は後からなので滑るかもしれない。対応しなければならない。他も樹木が伸びて来て管理していないと台風で倒れたり災害に変わってしまう可能性はある。
- ・斜面の緑地の所を含め全村的にチェックしている。予防的に管理をきちんとしないといけない。南台は土を盛っているので滑ってしまう。川根は岩盤（なので大丈夫）だが上に乗っている部分は弱い。対応を急がなければならない。まずは調査をなるべく早くする。

【照沼区自治会長 廣原勝廣】

- ・放射線を測る機械、村松地区には何基備わっているのか。また、何と言うのか。
⇒モニタリングポストと言って、空間のガンマ線や中性子線を測定しているものがある。県が設置しているものが県内73局ある。村内も20位あるかと思う。原子力事業所の敷地周辺にも法律に従って数基設置してある。各社ホームページで数字を公表している。東海村では0.04~0.06マイクロシーベルト位が測定されている。常時測定し、県のホームページでも公表している。【防災原子力安全課】
- ・測った数字は1分毎など更新されているのか。
⇒10分平均値でほぼリアルタイムに更新されている。空間放射線量はポストにもデジタルで表示されている。【防災原子力安全課】
- ・照沼区自治会では年2回防災訓練をしている。その際に携帯に防災アプリを入れて現在どうなっているか等を住民に知らせたいと計画している。その場合に防災原子力安全課から講師に来てもらえないか。
⇒いつでも呼んでいただきたい。【防災原子力安全課】
- ・先程の道路の話は道路整備課へ要望書を出しておいたので村長よろしくお願ひしたい。

【川根区自治会長 富永節夫】

- ・村民活動支援課へ相談しているのだが、集会所側の川（用水路）の斜面の草が生い茂っている。道路側は土地改良区が行っているが、家がある側はできていない状況。水面が見えない程草木

が覆い被さっている部分もある。土地改良区に相談したが、急な斜面なのと、行るのが高齢者で万が一足を滑らせると2メートル下へ落ちてしまうような所で実際できていない。水が溢れると流れを阻害する要因となる。なんとかできないか相談している。外注は相当お金が掛かる。土地改良区だけでもできず、川根区自治会でもできることはやっていきたいと思っている。村も協力いただきたいと要望する。

⇒自分たちでできないなら外注しかないと思うがストレートには村からは出せない。状況を見るしかない。業者に頼むといくらぐらいかかるのか確認が必要。(山田村長)

⇒全部やると数千万円。100m300万円と言われた。

⇒ずっと行っていないのか。(山田村長)

⇒10年以上行っておらず草ではなく木になっている状況である。

⇒やる人がなくできないで来てしまったのが現状。樹木が育ち過ぎた。水位が上がれば流れを邪魔してしまう。真崎浦土地改良区の範囲。(村松地区自治会顧問 照沼忠三)

⇒土地改良区の範囲のものを村が安易にやってしまうと何でもやってもらえると前例になってしまう。防災上優先的に対応しなければならない等の理由があればできると思うがすべてはできない。基準を設けて周辺住民の安全を守るために緊急避難的に対応ならできなくはない。金額が大きすぎる、全額とはいかない。土地改良区にも負担いただくか。村の中でも整理が必要。解決できるよう考えさせていただく。(山田村長)

【照沼区自治会長 廣原勝廣】

・川根区は上流から下流まで下水道が入っていないというのが本当か。

⇒集会所側はそう。(川根区自治会長 富永節夫)

⇒配管を通す所がないとの説明があった。各家庭合併槽設置の補助がある。(村松地区自治会顧問 照沼忠三)

・なぜ下水道の設備ができないのか聞きたい。

⇒下水道100%はなかなか難しい。管を増やすと維持管理もかかってくる。費用がかかり料金にも跳ね返ってくる。家一軒の為に通すとなると全体的に料金も跳ね上がってくる。効率上どこかで線を引かないといけない。地方は100%下水道は中々ない。費用の問題。(山田村長)

⇒昔子どもの頃川さらいに行かされた。(さうと) その時は川底がきれいに見えた。今は常磐線より上の所が開発され、垂れ流しもあった。その後合併処理などが行われた。真崎浦に流している状況もある。環境の面からも下水道の整備をお願いしたいと思った。

⇒川根に住んでいる人の生活環境改善の下水道対策と川根からの雨水を含めた生活雑排水の問題は別。上流が開発されれば色々な物が流れてくる。川根の下水道を整備するだけでは変わらない。上流から対策をしないと出来ない。川根の生活環境改善につながる下水道整備と新川をきれいにするための対策は一緒には考えない方が良い。(山田村長)

【川根区自治会長 富永節夫】

・夜中の駆け上がり線、救急車や消防車がサイレンを鳴らすと相当響く。翌朝私の所には誤報でした等の連絡が入るが地域の人はずいぶん鳴ったのか解らない。村、消防のホームページ等で出動した内容を簡単にでも報告できないか。安全のために出動しなければならない、安心のために報告があると助かる。

⇒事業所によって対応が違う。サイレン付きで入構した場合は、誤報であっても公表する所と誤報であった場合はトラブル扱いではないと公表していない所もある。消防でそういう案内ができるか含め検討させていただく。事故があった時は間違いなく我々からきちんと連絡広

報させていただく。村から何もなければ事故等ではなかったのだという意味では安心して欲しい。【防災原子力安全課】

⇒消防が対応するのは難しいかと思う。呼んだ方の事業者側が対応するしかない。火災他トラブルのある度に事業所は事実を公表するという事は事業者側に委ねるしかないと思う。事業所のホームページを見ればどういう事があったか分かるように、それは住民の安心にもつながる事なので広報活動の一環として考えてもらうように働きかける。問題があれば村できちんとやる。村からなければ問題なかったとあっていただき、問題はなかったが何だったかは事業所のホームページを見れば情報が確認できるようにしたい。(山田村長)

【萩谷副村長】

村松地区は新川を抱え、川根地区においては崖を抱えている。災害に対する自分達が住んでいる所のリスクという事に意識が高いと思う。自助をしっかりとる為には自分達の住む地域にどういったリスクがあるかをしっかりと把握することが大切。この村松地区の皆さんは十分できているのかと思う。

原子力災害については、国や村の指示に従って逃げただけとの話があった。村からの指示をしっかりと出すための広域避難計画が完成していない。できるだけ早く完成させて住民の皆さんに内容をしっかりと理解してもらうことが必要かと思う。

避難計画は完成していないが100%を目指して作り、その後継続的に見直しをしていく形が必要かと思う。

東海村の災害における過去の事例情報を伝えて行く事が必要とのご意見があった。まさしくその通りだと思う。東日本大震災の時の記録は作ったが、作っただけで活用されなければ意味がないので、今後PRしていかなければならないと思った。